

平成30年6月定例会 経済委員会（事前）

平成30年6月12日（火）

〔委員会の概要 商工労働観光部関係〕

来代委員長

休憩前に引き続き、委員会を開きます。（13時07分）

これより、商工労働観光部関係の調査を行います。

この際、商工労働観光部関係の6月定例会提出予定議案等について、理事者側から説明を願うとともに、報告事項があれば、これを受けることにいたします。

【提出予定議案】（説明資料）

- 議案第1号 平成30年度徳島県一般会計補正予算（第1号）
- 議案第2号 平成30年度徳島県中小企業・雇用対策事業特別会計補正予算（第1号）
- 報告第1号 平成29年度徳島県繰越明許費繰越計算書

【報告事項】

- 「とくしまLED・デジタルアートフェスティバル」の収支決算について（資料1）
- 「とくしまマラソン2018」の開催結果について（資料2）

黒下商工労働観光部長

それでは、商工労働観光部から今定例会に提出を予定しております案件につきまして、お手元の経済委員会説明資料に基づき、御説明させていただきます。

1 ページをお開きください。一般会計、特別会計予算についてでございます。

商工労働観光部の平成30年度一般会計につきましては、補正額欄の最下段に記載のとおり、3億1,300万円の増額をお願いしており、補正後の予算額は、合計で723億2,978万3,000円となっております。

2 ページをお開きください。

特別会計につきましては、補正額欄の最下段に記載のとおり、3億円の増額をお願いしており、補正後の予算額は、合計で1,346億9,856万円となっております。

次に、3 ページを御覧ください。課別主要事項説明でございます。

まず、企業支援課でございます。中小企業指導費の摘要欄の①中小企業総合支援費のA、ふるさと起業家支援プロジェクトとして、創業促進による地域経済の活性化を図るため、クラウドファンディング型ふるさと納税を活用し、地域課題の解決に資する魅力的な事業を立ち上げる起業家を支援するための経費として1,000万円を計上しております。

4 ページをお開きください。新未来産業課でございます。

中小企業振興費の摘要欄の①中小企業・雇用対策事業特別会計繰出金として、とくしま経済飛躍ファンドを拡充するため、中小企業・雇用対策事業特別会計に繰り出す経費として、3億円を計上しております。

5 ページに参りまして、中小企業・雇用対策事業特別会計の摘要欄の①とくしま経済飛躍ファンド造成資金貸付金として、本県が誇るLED、藍や地域資源を活用した新商品、新技術の開発、販路開拓等に対する支援を強化するため、中小企業振興条例の強力な推進エンジンである、とくしま経済飛躍ファンドの拡充による中小企業支援の充実を図るための経費として、3億円を計上し、総額131億円へと規模拡大することとしております。

6 ページをお開きください。観光政策課でございます。

計画調査費の摘要欄の①地方創生の深化のための支援費のア、“空”でつなぐ！誘客・交流拡大チャレンジ事業として、徳島ー福岡線の増便や乗継割引設定路線の拡充等の好機を捉え、観光誘客、交流人口の更なる拡大を図るため、九州等での観光及びビジネス需要の喚起など誘客プロモーションを実施する経費として300万円を計上しております。

続きまして、7 ページを御覧ください。

その他の議案等といたしまして、平成29年度繰越明許費繰越計算書でございます。さきの2月定例会におきまして、繰越しの御承認を頂いておりました、にぎわいづくり課の観光施設管理運営費につきまして、資料に記載のとおり繰越額が決定したことを御報告させていただきます。当該事業につきましては、渦の道とあすたむらんど徳島の改修工事で、平成29年度内に所要の工期を確保できなかったことから、繰越しを行ったものでございます。あすたむらんど徳島につきましては、去る5月1日に事業が完了しております。なお、渦の道につきましても、事業の早期完了に向けて引き続き努力してまいりますので、御理解を賜りますようお願いいたします。

今定例会に提出を予定しております案件につきましては、以上でございます。

続きまして、この際、2点、御報告させていただきます。

第1点目は、「とくしまLED・デジタルアートフェスティバル」の収支決算についてでございます。

お手元の資料1を御覧ください。

去る2月9日から18日までの10日間にわたって開催いたしました、とくしまLED・デジタルアートフェスティバルにつきまして、平成30年2月定例会の経済委員会におきまして、開催結果を御報告させていただいたところでございますが、このたび、収支決算額が確定いたしましたので御報告させていただきます。

資料の4の決算額を御覧ください。収入、支出とも、予算額1億6,500万円に対しまして、1,072万6,343円減額の1億5,427万3,657円となっております。

また、このうち、県の補助金につきましては、当初予算額8,000万円を予定しておりましたが、470万6,666円減額の7,529万3,334円を交付したところでございます。

今後は、とくしまLED・デジタルアートフェスティバル実行委員会に設置するタスクフォースにおきまして、今回のフェスティバルを踏まえた改善点について、十分検証を行いまして、その後、今後の在り方について実行委員会において協議を行う予定といたしております。

第2点目は、「とくしまマラソン2018」の開催結果についてでございます。

お手元の資料2の1 ページを御覧ください。

2018大会につきましては、去る3月25日に開催し、海外ランナーを含め県内外から、前回大会並みの1万4,200人のエントリーがあり、1万2,416人が出走し、1万1,044人が完走さ

れました。

2ページを御覧ください。

収支決算見込みにつきましては、とくしまマラソンの会計期間は8月1日から7月31日までとなっているため、現在、2018大会の決算は確定しておりませんが、現時点における見込みとしましては、予算と比較して、収入が約100万円減の約2億2,800万円、支出が約500万円減の約2億2,400万円となり、約400万円の黒字決算となる見込みであります。次回、2019大会に向けても、ランナーの皆様に進化するとくしまマラソンを実感していただけるよう、関係団体の皆様とともに、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

また、2019大会の実施に係る県から実行委員会への負担金につきましては、来る9月定例会に、補正予算として提案できるよう準備を進めたいと考えております。

最後に、お手元には、県内主要景気指標に関する資料を配付させていただいております。今後、各定例会の事前委員会におきまして、配付いたしたいと考えておりますので、御参考に供していただきますようお願い申し上げます。

説明及び報告については以上でございます。

御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

来代委員長

以上で、説明等は終わりました。

これより質疑に入ります。

それでは質疑をどうぞ。

達田委員

今、御説明のありました予算からお尋ねをしたいと思います。

4ページ、5ページにかけまして、中小企業・雇用対策事業特別会計繰出金と繰り入れられた特別会計というのが出ているんですけども、貸付金事業に要する経費ということで、補正されているのですけれども、この事業はどういう事業なのですか。私も2年ほど経済委員会を離れておりましたので、その間に新しくなっているものがあるかと思いますので御説明いただけたらと思います。

松本新未来産業課長

とくしま経済飛躍ファンドの補正についての御質問でございます。

とくしま経済飛躍ファンドにつきましては、これまで中小企業振興条例の推進エンジンといたしまして、全体の8割につきましては、国から10年間の無利子貸付けを受けまして、当方の地元資金といたしまして、県や県内金融機関からの貸付金、これを合わせまして総額125億円のとくしま経済飛躍ファンドを公益財団法人とくしま産業振興機構に造成をいたしました。その運用益によりまして、県内中小企業が取り組む新商品、新技術の開発並びに販路開拓などへの支援を行ってきたところでございます。

とくしま経済飛躍ファンド事業につきましては、地域資源活用枠、LEDバレイ推進枠

及び農商工連携枠、この三つの枠で推進してきたところでございますが、昨年9月LEDバレイ推進枠再造成に当たりましては、新たに「LED×藍」産業応援枠といたしまして、ジャパンプルーと称されます藍、これを支援対象に加えますとともに、3億円の増資をさせていただきますして、徳島の誇る二つのブルーを活用した取組を積極的に応援する制度へと充実強化を図ったところでございます。

それと今年度でございますけれども、地域資源活用枠が本年の9月に、それから農商工連携枠が来年の1月に貸付金償還期限を迎えるということで、地域資源活用枠を地域資源産業応援枠として、また農商工連携枠は「LED×藍」産業応援枠と一体化いたしまして推進するという形で、当初予算でお認めいただきますして、それぞれ再造成を行うことといたしております。

県といたしましては、東京オリンピック・パラリンピックを控えまして、県内経済を支える中小企業の皆様が、持てる力を存分に発揮をさせていただきますして、持続的な成長へとつなげていただけますよう、この国の有利な資金制度をより積極的に活用いたしまして、タイムラグなく再造成することによりまして、しっかり支援を行いたいということで、新商品の開発や、販路拡大、6次産業化の取組を一層加速させるということで、今回、県から貸付金3億円の増資の要請をお願いしているところでございます。

また、国の資金につきましては、同ファンド事業を実施しております他の都道府県との間で、配分されることになるんですけれども、この有利な資金をしっかりと獲得していくためには、国に対しまして、県は積極的に取り組んでいるという姿勢をいち早く示すことが重要であるということと、近年、低金利の状況でございますので、ファンド事業を意味のある事業としていくため、地元資金によるファンド造成規模の拡大を国出資8割、これを継続するための条件として、厳格に運用するという方針が国から示されていることもございまして、本議会に提案させていただいているところでございます。

それで3億円のうち、地域資源産業応援枠に1億円、「LED×藍」産業応援枠に2億円をそれぞれ増資し、総額131億円ファンドといたしまして、より効果的な支援を含め、地域経済の活性化につなげたいというふうに考えております。

#### 達田委員

この事業そのものが平成19年からですかね、平成20年からですかね、ずっと続いていると思うんですけども、助成金として補助をしますよということなんですが、これまでに申請して補助を受けられた数、それと、こういうものが開発されましたよという、製品が世に出て、県民の目に見えるようになっているのか、それを教えていただきたいと思いません。

#### 松本新未来産業課長

とくしま経済飛躍ファンド助成事業の実績でございますけれども、平成19年度からこれまで、4月末現在でございますが、457件の事業に約20億6,000万円の助成を行ってきたところでございます。これらの支援によりまして、LED照明によります外観検査装置の開発でありますとか、ハイパワーLED照明の開発、阿波尾鶏を活用した防災食品の開発、また、低コスト高強度の次世代パイプハウスの開発など、大きな売上げにつながっている

という成果も出ているところでございます。

達田委員

いろんな商品開発をされて、それが県民に対して、こういうふうに助成をしたのでこういうのができて、生活に役立つものができておりますとか、あるいは安全に役立っておりますとか、そういうのが具体的に分かるような報告というのが何かあるでしょうか。

松本新未来産業課長

とくしま経済飛躍ファンドを活用した事業の成果が、県民の皆様に分かるように発信されているかという御質問でございます。当該事業で開発、生産されました、例えば、LED製品につきましては、先月5月10日にリニューアルオープンをいたしました東京のLED応用製品等常設展示場、こちらにおきまして展示をさせていただいております、首都圏での販路拡大につなげるように発信しているところでございます。また、お試し発注制度によりまして、県が率先してそれらの製品を購入して、県内の道路でありますとか県立施設、ここに設置することによりまして、いわゆる生きたショールームということで積極的にPRを行いますとともに、その状況につきましては県のLED王国・徳島のホームページにも詳細情報を掲載して設置場所等を情報発信させていただいているという状況でございます。

毎年開催しております徳島ビジネスチャレンジメッセ、こちらにおきましても、会場にブースを設けまして、とくしま経済飛躍ファンド事業で開発された商品を数点ではございますけれども展示して、来場していただいた皆様に御紹介させていただくということも実施させていただいております。

達田委員

この研究の成果、開発の成果を広く県民に知っていただくというのは、とても大事なことだと思うんですね。理解を頂いて、そしてまた新たに商品開発に力を注ぐというふうな循環になっていくと思います。実は、とくしま経済飛躍ファンドの成果の事例集を頂いたんです。これは平成26年までの分の代表的なものだと思うんですけれども、こういうふうな商品ですというのがよく分かるように作っていただいておりますが、その後、何か出す予定っていうのはあるんでしょうか。

松本新未来産業課長

事例集の冊子としては今のところ新たにという予定はございませんけれども、確かにとくしま経済飛躍ファンドを活用した成果ですというPRがまだ不十分だということもございます。今後とも、公益財団法人とくしま産業振興機構と連携を図りながら、県内中小企業はもとより、県民の皆様にもよく知っていただけますよう、また事業者の皆様の新たなチャレンジへの取組意欲の醸成につながりますように、しっかり情報発信を行ってまいりたいと考えております。

達田委員

これは助成金ですので、お借りしてお返しせないかんというものではないですよ。それだけに、成果を県民の皆様にしかりと伝えて分かっていただくという活動は必要だと思いますので、是非その分、そして、できた商品あるいは開発した物、いろんな商品が、どういうふう役に立っているかっていうのを知らせていくということに是非取り組んでいただきたいと思います。

これは助成金なんですけれども、上限が1,000万円というふうにお聞きしているんですけども、開発の商品によっては、1年だけではなかなかできないのもあるのでないかなと思うんです。ですから、もっと期間も掛かるしお金も掛かりそうだなっていう場合は、何か特別にあるんでしょうか。

松本新未来産業課長

1年で終わらない事業もあるのではないかとということでございます。これも柔軟に、複数年も対応できるような制度となっているところでございます。

達田委員

1年限りで1,000万円までと、その枠内でやってくださいよと、全てそうなんですか。そうしたら、上限が1,000万円ということなんですけれども、下から上までであると思うんですけれども、上限までいった企業はどれだけあるんでしょうか。

黒下商工労働観光部長

これは競争的資金になっておりまして、厳格な審査をしながら事業者にできるだけ配分機会を増やすということでやっております。なかなか、その上限までいくというのは、今までに数は少ない状況でございます。

達田委員

実はこの前、新宿の展示場に初めて行かせていただいたんですが、LEDとか藍の製品が、たくさん開発されているのを初めて見させていただいたんです。そしてその場で、徳島県人会の方もおっしゃってましたけれども、会長さん自身が、こういうところ初めて来ました、こんなのがあるの初めて知りましたっておっしゃってましたので、多分余りPRができてないというか、知られてない場所かなと思ったんです。ですが、本当に素晴らしい商品がいっぱい開発されているのに、それを知らないというのは本当にもったいないことだと思いますので、是非それを県民にちゃんと報告という形で還元をしていただきたい。

100件あったら100件全部ヒットするとは思っていませんけれども、やっぱり社会に役立つ商品をどんどん生み出していただくといいということで、頑張りたいなと思っております。またこのことにつきましては、付託委員会でも詳しく聞かせていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

もう1点なんですけれども、6ページに地方創生の深化のための支援費ということで、“空”でつなぐ！誘客・交流拡大チャレンジ事業ということで、先ほども少し御説明がありましたけれども、もうちょっと詳しく、中身を教えてくださいたいと思います。

## 國安誘客営業室長

こちらの事業なんですが、徳島阿波おどり空港で平成30年1月21日に新ターミナルがオープンして、航空機の乗り入れ能力の向上や、国際線の本格対応が図られた県政史上最多となるインバウンド連続チャーター便が就航したところですが、また新ターミナルオープンを契機に、国内線においても3月25日から九州・沖縄方面をつなぐ徳島－福岡線が1日2往復に増便されるとともに、5月以降は既存路線を活用した乗り継ぎ割引路線が拡充されております。

さらに、5年連続となる徳島－札幌線の8月季節運航が決定されるなど、北海道・東北・北陸方面をつなぐ東京線と合わせて、国内航空ネットワークの充実強化が進んでおります。

このような中、地方創生の加速、消費者庁等の徳島移転の実現に向け、日本各地と徳島をつなぐ、利便性の高い航空路線が出そろった絶好の機会を逃さず、夏・秋旅行シーズンにおける誘客促進に弾みをつけ、誘客営業、交流人口の拡大を強力に推し進めるための施策として展開を考えております。

福岡線、札幌線及び乗り継ぎ就航路線就航先において、効果的な誘客プロモーションを実施するためには、旅行会社による団体旅行商品の造成に加え、個人の観光客、ビジネス客の需要を喚起する必要があると考えております。

まずは観光客向けのPRとして、福岡のテレビ局を徳島に招へいし、現地取材していただいた上、観光情報を放送してもらうなど、地元マスコミを活用し、各媒体のターゲットにあった旬の観光素材を戦略的にPRするほか、観光客に加え、ビジネス客向けのPRとして、JR博多駅やJR札幌駅において、デジタルサイネージを活用した、徳島－福岡線の2便化、徳島－札幌線の季節便就航など、本県への航空アクセスの利便性を発信してまいりたいと考えております。

加えて別の予算計上になるんですが、次世代交通課においても、6月補正を計上しておりますので、そちらのほうでも、個人向けの販売支援制度を設けることとなっておりますので、その制度も併せて福岡、札幌をはじめとした対象の旅行会社に対し、しっかりと連携して効果的なセールスを実施してまいりたいと考えております。

## 達田委員

福岡線が2便に増えました。札幌線につきましては、毎年のように8月に週3便飛ばしますよと、それから、乗り継ぎも便利になるよとということ、徳島へどんどん来ていただくよとということ、取り組んでおられるんだと思います。

現在の東京、福岡それから、札幌は年に2回ですけども、どれぐらいの方が利用して、搭乗率がどれぐらいなのか、そして、どういうふうに目標を設定されているのか、お尋ねをして終わりたいと思います。

## 國安誘客営業室長

平成29年度の東京線の利用者数は約108万人で搭乗率が60.5%、福岡線が2万9,000人弱で搭乗率は46.6%、札幌線が搭乗者数が3,348人で搭乗率が64.3%となっております。

今年の5月はまだきちんと出ていないので、4月の数値しかないんですが、東京線で搭乗率が55.4%で利用者数が8万3,676人、福岡線が搭乗率が40.3%で3,570人となっております。

4月の搭乗率は例年、1年間でも一番悪いと言われていまして、5月は多少上向いてきているところなんですけど、こちらの福岡線の搭乗率を上げるためにも、先ほどの補正予算などを十分使わせていただいて、積極的なPRを図っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

#### 井川委員

言う気はなかったんですけど、とくしまマラソン開催結果についてということで、先ほど御報告を頂いたんですが、私もちょうどその日は、徳島にいなかったんですが、とくしまマラソンがどういう状況であったのか、ランナーがどういうふうな感想をもって帰られたのか、ボランティアの方々がどうであったのか、詳細を教えていただけたらと思います。

#### 森にぎわいづくり課長

とくしまマラソンについての御質問でございます。

とくしまマラソンは、県民のスポーツ振興また健康増進とともに、本県の魅力を全国に発信し、スポーツを通じた、にぎわい創出を目指すものでございまして、2018大会におきましても、ランナーや関係者の御意見をしっかりと受け止めまして、いろいろな見直しを図ったところでございます。

まず具体的な見直し内容でございますが、まずスタートブロックの見直しということで、前回から導入いたしましたウェーブスタートのブラッシュアップを図るという観点から、スタート地点のランナーの配置を走力順の配置といたしました。

それから、年代別表彰の見直しということで、これは、ワールドマスターズゲームズも見据えての対策でございますが、従来、50代、60代、70代以上という3区分の表彰であったものを、全年代5歳刻みに拡大をしております。

その他の見直しといたしまして、2017大会で御指摘が多かった、スタート地点の手荷物預け場所の混雑、それからトイレの混雑の緩和を図るために国道55号線を上下線とも通行止めといたしまして、南向きの車線に荷物預けトラックを配置し、荷物を預けてすぐにスタート地点に並べるといった大幅な見直しを図っております。

その他、附帯イベント、ファンランを2017大会から実施しておりますが、こちらの充実を図るために、ファンランと合わせまして会場のほうに飲食コーナーとか、スポーツグッズマーケット、こういったものを配置いたしまして、にぎわいの創出を図ったところでございます。

このような改善に努めまして、ランナーの皆さんからは、御評価を頂いていると認識しておりますが、一方で、ランナーの声といたしまして、当日大変天候に恵まれた状況ではあったんですが、逆に気温がちょっと高くなりまして、前回大会よりも7度近くも高くなったということで、結構暑いという状況の中で、ランナーの皆さんからは、結果としてタイムが伸びなかった、完走者の平均タイムも前回大会よりも8分程度数値が落ちており



ますし、完走率も示しております資料のとおり下がっているというような状況がございます。3月の開催でございますので医療班からは、寒さ対策の御意見を頂いたところでございますが、暑さ対策についても、十分検討が必要であるということで、事前の天気予報等でそういう情報を十分把握いたしまして、例えば、かぶせ水とかスポンジとか、そういった対策を次回に向けて検討していきたいというふうに考えております。

#### 井川委員

徐々に進化しているというか、いろんな要望点を聞きながら、少しでもマラソン大会が続いていくように、また、研さんを積んでいっていただきたいと思っております。

私事ではあります。私の家の近辺の町内会もちょうどゴール地点になっておりまして、2017年大会のときには、いろいろあって反省会をしますと言うて、結局は2017年度が終わりかけて反省会をやったような状況でございました。

私の地域の方からいろいろ苦情を聞いたところでもあります。今年の大会におきましては、もう既に反省会をしていたということで、非常に地域の間人も、喜んでおりますね。これからも、協力していただけるということをも十分に聞いておりますので、今後とも頑張っていきたいと思っております。

それと、とくしまLED・デジタルアートフェスティバルなんですけど、するかせんかとかまたあれなんですけれども、これは、無理して毎年しなくても、十分に協議いただいてもっと効果が出るように、十分考えてやっていただきたいと思っております。

#### 来代委員長

ほかに質疑はございませんか。

（「なし」と言う者あり）

これをもって質疑を終わります。

以上で、商工労働観光部関係の調査を終わります。

次に、当委員会の県外視察についてでございますが、ただいまの予定といたしましては、8月6日から8日までの3日間の日程で、実施したいと考えておりますが、よろしゅうございますか。

（「異議なし」と言う者あり）

それでは、さよう決定いたします。

なお、当委員会として調査すべきテーマや視察箇所等がございましたら、早めに正副委員長まで御提案いただけたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。

これをもって、経済委員会を閉会いたします。（13時38分）